

## 試験研究成果普及情報

部門	森林保全	対象	行政
課題名：九十九里浜クロマツ海岸防災林の広葉樹林化の方向の解明			
<p>[要約] 過湿害やマツ材線虫病で枯れが進む九十九里浜のクロマツ海岸防災林について、防災機能を回復するための広葉樹林化の方向を明らかにした。その方向を示す目標林型として、汀線側林縁部ではトベラ・マサキ林、内陸側の高木林ではタブ・エノキ林やエノキ林、湿地ではハンノキ林が適切であることが明らかとなった。</p>			
キーワード： 海岸防災林、クロマツ人工林、広葉樹林化、目標林型			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・森林研究所		
	協力機関 北部林業事務所		
実施期間	2008年度～2009年度		

### [目的及び背景]

九十九里浜のクロマツ海岸防災林は、過湿害やマツ材線虫病の被害を受け急速に疎林化が進んでいる。このため、広葉樹林化が可能な地域については、広葉樹林化による防災機能の回復技術が求められている。

### [成果内容]

植物社会学的植生調査と各海岸を代表する植生配分を調査し、遷移方向にある群落から広葉樹林化の目標林型を設定した。なお、設定にあたっては、植栽や管理により30年前後で成立可能なものとした。

- 1 汀線側林縁部の植生は、海岸砂丘植生構成種を持ち、クロマツ人工林チガヤ下位単位とクロマツ・イタチハギ人工林、クロマツ・トベラ人工林が認められる。内陸側のクロマツ人工林は、ススキ草原や二次林の構成種を持ち、これにタブ林の構成種が加わることで典型下位単位とタブ下位単位が認められる。また、湿地にはヨシ下位単位が認められる。
- 2 遷移方向の群落から目標林型の候補として、汀線側林縁部ではトベラ・マサキ林とトベラ・マサキ人工林、内陸側の高木林ではタブ・エノキ林とハンノキ林、エノキ林、ニセアカシア林が確認される。
- 3 遷移方向にある群落からみた広葉樹林化の目標林型は以下のとおりである。
  - (1) 汀線側林縁部の目標林型としては、遷移の方向からみてトベラ・マサキ林とする。ただし、これらの群落内に次代を担う樹木群が少ない場合にはトベラ・マサキ人工林とする（図1）。
  - (2) 内陸側の高木林では、ヨシ下位単位などを除いて、タブ・エノキ林とタブ・エノキ人工林を目標林型とする。ただし、典型下位単位はタブ林化が始まっておらず、タブノキを植栽する場合には、タブノキが定着しやすいと考えられる湿地から試行

的に実施する。やや地盤が高い場所については、内陸側ではエノキ林、海側ではトベラ・マサキ人工林を目標林型とする。また、ニセアカシア林の設定はタブ林化を阻害する可能性があるので、成林を急ぐ場合を除き目標林型としては設定しない。ヨシ下位単位については、ハンノキ林が目標林型となる。クロマツが枯れて成立したススキ草原については、枯れる以前の群落を参考に目標林型を設定する(図2)。

[留意事項]

- 1 風害を防ぐため、広葉樹林化は汀線側林縁部から連続して進めることが望ましい。
- 2 広葉樹林化しない地域の目標林型は抵抗性クロマツ人工林とする。

[普及対象地域]

九十九里浜海岸防災林で広葉樹林化を図る地域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

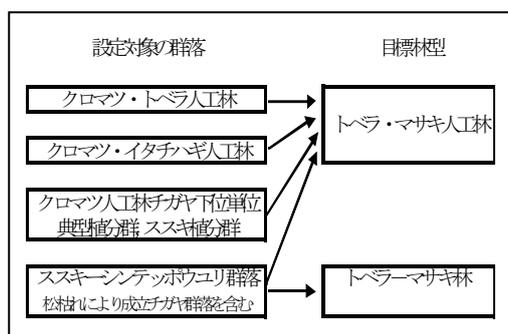


図1 汀線側林縁部の目標林型

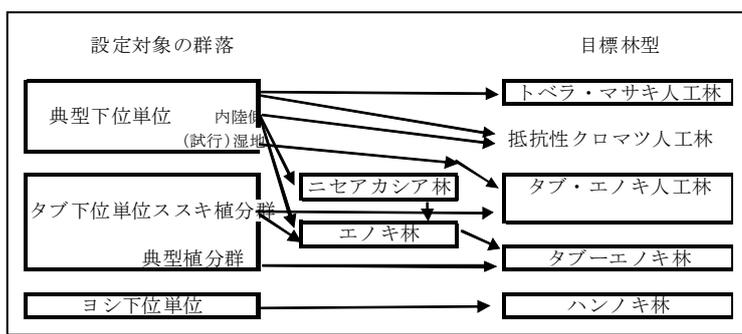


図2 内陸側高木林の目標林型

注) ニセアカシア林は成林を急ぐ場合の設定のみとなる

[発表及び関連文献]

- 1 平成21年度試験研究成果発表会(林業部門)
- 2 千葉県九十九里浜におけるマツ材線虫病により枯れが進んだクロマツ海岸防災林の目標林型の検討、関東森林研究第61号、2009

[その他]